

平成30年度 自己評価の結果について

学校法人旭川カトリック学園 羽幌藤幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教的な愛を基本とする宗教的な雰囲気の中で、幼児一人一人と向き合い、人格形成に最も大切な時期に、はっきりとした道徳観をもてるようにする。また、戸外遊びなどを通じ主体的の遊ぶ活動を意図的に取り入れ、幼児自身が持つ可能性を最大限に伸ばすことを基本にした保育計画を作成し保育を行う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- * カトリックの教育理念の理解に職員で取り組み、保育内容や指導のあり方についても職員間での話し合いを深め指導計画に反映させる。保育計画については保護者にも知らせ、共通の認識をもって保育にあたる。
- * 縦割り保育を実践する中で家庭的な園での生活を心がけ思いやりの心を育てる。また、年齢別保育では、年齢の発達に合った計画を行い、発達を考慮しながら進める。
- * 満3歳入園児に対して柔軟に対応し、初めての集団生活にスムーズに入れるよう一定期間の満3歳児クラスの配置や連絡ノートを活用し個別の対応に配慮する。
- * 園庭や園外保育を通して戸外遊びを充実させる。
- * 地域の資源や公共施設訪問などを行い、地域の環境を生かした保育の実践を心がける。また、老人施設訪問なども継続して取り組んでいく。
- * 支援を必要とする幼児に対して、職員を配置し、療育機関との連携を深め、保護者には園での様子を伝える連絡ノートを活用しながら一人一人に配慮した保育を行う。
- * 教師一人一人が幼児と向き合い、きめ細かい保育ができるよう、また保育チームとして情報を共有し、自己研鑽を心がけ資質の向上をはかる。
- * 小学校との相互の連携を深め、就学に向けてスムーズな移行を行う。
- * 保護者への情報提供を遅延なく行い、個人情報に留意しながらホームページやブログなどの充実を図る。
- * 卒園児を対象とした学童保育（のびのび）を継続し、子育て支援の機能を充実させる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
1 教育目標・教育方針 建学の精神にあるキリスト教理念を理解している。 教育目標と教育方針を理解して保育に当たっている。	B	教育目標にあるキリスト教的愛を基本とする雰囲気作りに努めるとともに、保育計画の中にも反映させて保育に当たってきた。ただ、定期的に月末や学期の始まる前に教職員全員で定期的に会議の場を設

		けるように今後は取り組んでいきたい。
<p>2 教育課程・指導計画</p> <p>幼稚園教育要領を理解し、教育目標に反映させながら保育計画を作成している。指導計画を反省、評価し改善している。指導計画は幼児の興味や関心、これからの生活などを考慮して作成している。</p> <p>指導計画は、保護者にも周知し、家庭との連携をもって取り組む。</p>	A	<p>新幼稚園教育要領に沿った形での保育は進められているが、指導計画作成には至っていないので、新年度に向け実践する中で早急に作成するよう努める。</p> <p>行事などは子どもたちが主体的に取り組めるように、十分な時間を掛けることにより、少人数ではあっても成果は達成できたと思う。園での取り組みが家庭にあっても理解いただけるよう2週ごとの週案を提示することにより、子どもたちが、期待感を持って登園し、先の見通しを持って活動できるよう心がけてきた。家庭においても園と連携して子どもたちの成長を願っていると感じた。</p>
<p>3 環境構成</p> <p>幼児の興味や関心、実態に即した環境を構成している。</p> <p>季節や周囲の自然を生かした環境を構成している。幼児の主体的な活動の合わせて適切に環境を再構成するようにしている。</p> <p>施設、設備を日常的に点検し安全を確保する。</p>	A	<p>幼児の興味関心を的確に捉え、環境構成を行うよう努力した。廊下に季節ごとの行事等の写真の掲示や季節ごとに子どもたちが作った作品をばら組壁面に展示するなど、季節を感じるよう工夫した。また、園庭遊びや園外保育を充実させた。しかし、冬期間の戸外遊びは気候的な問題もあり十分とはいえなかった。</p> <p>園舎の老朽化による設備の不備は日常的に点検し、その都度補修をしているが、予算の関係で補い切れていないのが現状である。来年度は大きな補修を計画している。</p>
<p>4 宗教教育</p> <p>宗教的な環境を大切にしている。</p> <p>祈りを大切にし、神様を賛美し感謝する心が育つよう、また、人を思いやる心が育つよう心がけている。</p> <p>園児に対して宗教講話が定期的に行われている。</p> <p>「がまん・しんせつ・おいのり」を保育の中で生かしている。</p>	A	<p>朝のお祈り、食前後お祈り、帰りのお祈りといつもお祈りによって始まり、終わる幼稚園であるよう心がけた。お祈りに対しての保育者の意識的な言葉がけを行い、お祈りできるよう促した。</p> <p>聖堂での宗教講話は年間20回程度、また学期の始業日、終了日、誕生会などの機会に行うことができた。園児に向けた宗教講話は紙芝居やポスターなどを使い伝えている。聖堂でのお祈りの時間を大切にしている。今後も「がまん・しんせつ・おいのり」が子ども達に浸透していくよう指導していきたい。</p>

5 保育の内容・方法・

健康のための食育や生活習慣を育て、自分を大切に、他の人や社会の喜びを持たせる。

友達と共感し、助け合い、協同でやり遂げる喜びを持たせる。特に弱い者や小さい者を大切にする。

保護者、祖父母、地域等の、幼児を取り巻く人々の愛情に気づかせ、家族、高齢者とのふれあいを大切に、人々に出来ることを実践する。

自然界の不思議に関心を持たせ、畏敬の念と、自然を大切にする心、探求し思考する喜びをもたせる。

動植物との触れ合いを多くし、生命を大切にする心や感謝する心、豊かな心情を育てる。

言葉を注意深く聞き、心を開いて話し、紙との対話である祈りのための沈黙や静けさを大切にする心を育てる。一人ひとりの個性を大切に自己表現を助け、美しいものにたいする感性や創造性を援助する。

A

縦割り保育を実践する中で、思いやりや生活習慣の自立を心がけ保育を行う事が出来た。

食育については今年も農家の方や漁師の方の協力をいただき実施することが出来た。中庭の畑では今年もジャガイモ(今年も連作による病気が付いて食べることが出来なかった。)・カブ・トマト・枝豆を育て収穫の喜びを味わうことができた。また、田植えから稲刈りまでの経過を見学し、収穫後には新米をいただき、みんなでクッキングをしたことで食への関心をさらに向上させることができた。

恒例となった老人施設への訪問は交流することに視点を置き利用者の方に大変喜ばれた。今後も継続して取り組んでいきたい。

オタマジャクシ採取、飼育、カブトムシの飼育など身近な生き物にふれあう機会を設けた。また、鮭の遡上見学など地域の資源を活用した取り組みを行った。

警察署訪問での交通安全指導、消防署見学での訓練見学など地域の方の協力をいただきながら取り組んできた。年長児は警察の「ひまわりの種プロジェクト」に参加し植え、そして大きく咲いたひまわりを見学と交通安全意識の向上につながった。

年長児の羽小まつり参加、授業参観や給食体験など就学に向けて期待感が持てる取り組みになった。

また、支援を必要とする幼児に対し、療育機関と連携し、個別の支援計画を作成し、保護者との連絡ノートに園での様子を画像とコメントで知らせ、きめ細かい支援を行った。

満3歳児入園の幼児に対しても園に慣れるまで個別の対応を行い、連絡カードなどを使い保護者との信頼関係を築き、スムーズに園生活が送れるよう配慮した。また、幼児に合わせ、柔軟な対応を行い、職員全員で課題を話し合い取り組んだ。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

キリスト教理念や建学の精神は園長を交えた職員間での共通認識をより一層築けるよう、今後も取り組んでいかなければならないと感じる。

縦割り保育は継続する中で、異年齢での生活が元となり思いやりの心が育まれている。新入園児も年長年中児との関わりのなかで園生活に慣れていくことができた。今後入園の状況を把握し適切な対応ができるようにしていきたい。行事等においても早い時期から取り組み（マーチング・生活発表等）、全体がスムーズに流れるように配慮した。保護者の皆様にうみ遊び、夏祭り、運動会、もちつきとご参加いただき、より一層家庭的な園の雰囲気作りとなった。保護者の皆様の協力に感謝している。

支援を必要とする幼児に対して、補助職員を増やして個別の対応をすると共に、保護者が安心して預けられるよう信頼関係を築いた。

保育計画や内容については、幼児の興味や関心を的確に捉え取り組むよう努力してきた。今年度も老人施設へ訪問し、子どもたちの歌や遊戯を見ていただいた。一緒に楽器を奏でるなど、高齢者の方にも喜んでもらい今後も継続していきたいと思う。幼小の連携については、羽小まつり参加、授業見学及び給食体験などに参加した。今後も幼小連携に努めていきたい。

ホームページなどの情報発信は入園募集時に更新している。今後もブログの発信と合わせ充実させるようにしたい。

9月6日起きた胆振東部地震でブラックアウトになり保護者への連絡等が取れない状況が発生したことを受けて、今後学園とも協議しながらネット回線などを利用した連絡網の設置を考えていきたい。

学童あずかりも3年目を迎え、卒園児に限定はしているが、10名ほどの児童が利用している。今後も安心安全を心がけ、子どもたちが安らげるよう、保護者にあっては安心して預けることができるよう運営していきたい。

今後、共働きの家庭が多くなることが予想されるので、保護者からの声を大切にしながら、体制や園の方向性を考えていくことが必要と思う。

5. 財務状況

太陽有限責任監査法人による監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び本園の財務状況は率的な運営にあっている。

保護者・関係者の意見欄

1の教育目標の中にある、幼児一人一人と向き合いや、幼児自身が持つ可能性を最大限に伸ばすことを基本にした教育という内容がまさに、実現されている幼稚園であることを、子どもの成長・先生方の関わり・園の雰囲気から感じることができます。そしてそれは親として一番ありがたく安心できる部分で、子どもの個性を理解して、その子のその時の課題や達成感を親・子どもと同じ目線で見ていると感じることに心強さがあります。

3. 取組状況の5保育内容・方法の評価の中にある、幼児に合わせ、柔軟な対応を行い、職員全体で課題を話し合い、という部分が我が子のことを園の先生方みなさんが把握してくれているなど親が常々感じられる理由だなと思います。お手紙の内容だけでは要領をキャッチできないこともいくつかありましたが、その都度、丁寧に教えていただきました。保護者の手伝いで先生方の負担や役割を少しでも減らせるよう、できる限り協力していきたいつもりですので今後とも宜しくお願い致します。

限りある環境の中で先生たちは工夫し、子ども達に様々な経験をさせて下さいました。年齢のレベルを考慮し、努力→達成→満足のプロセスを体験させ子ども達に自信を持たせて下さいました。子どもがくじけた時には立ち止まり、寄り添ってくれる先生がいた事、子どもの様子を見て出来そうだったら背中を押してくれる事、とても良くみていてくださり、一人一人の子に対応されていました。家庭のような幼稚園の中、発育がゆっくりな子どもも、安心し、自信を持つことができました。縦割り保育では、年長の時には青さんの自覚が芽生え、責任感を持つという心の成長をととても感じました。入学へ向けて、良い準備、心構えが出来たと思います。

2週ごとの週案はとても良いと思います。実際「今日は何するの?」と聞かれることが多く、週案を見て教えてあげると安心して朝登園して行けるようです。子どもが祈る姿は可愛らしく、とても美しいですね。入園してから親の私も祈る習慣ができました。クリスマス会はなにか神聖なものを見せられた気分になりました。子ども達を美しいと思ったのは初めてで、入園してから私自身子どもへの見方が変わりました。先生方の声によく耳を傾け、一人の人間として向き合ってくれている様子にはいつも感動します。安心して預けることができます。そして、子どもとの接し方の見本にもなっています。英語の授業があるのはうれしいです。英語だけでなく、ダンスや体操やスポーツなど様々なことを経験して興味の幅が広がれば、なお、良いかなと期待しています。クッキングの日はお弁当の負担もなくなりますし子どものお手伝いの意欲にもつながると思うので嬉しいです。

先生方のきめ細やかなご指導は子ども達の、話し方であったり、製作物などで間接的に感じています。私自身が、よし私も今日我が子が帰ってきたらやってみよう、と励まされています。行事などの準備等大変なことと思いますが、その度に、たくましく成長していく子ども達に感動しています。天候や保育内容もあると思いますが、外遊びや身体を使った遊びがもっとできると嬉しいです。

各項目等妥当と思われる。羽幌小学校への就学前に、特別な支援を必要とする幼児に対して、関係機関との連携を図り、対応いただいておりますことに、とても感謝しております。今後とも宜しくお願いたします。「クリスマス会」を参観させていただきましたが、園児の様々な潜在能力を引き出す行事だと思いました。活動を通じて、身体機能も高めていると感じました。本校の各種行事に、本年度も藤幼稚園の園児を参加させていただき、大変ありがとうございました。本校の子ども達にとって、幼い子どもたちとの活動を通じて、得るものがたくさんあります。今後共、幼小連携をよろしくお願いたします。